

## 第 4 回 SC 委員長会議報告

日 時： 2002 年 7 月 4 日（木）13:00～17:00

場 所： 「Marunouchi Cafe」内 B 会議室（丸の内 富士ビル地下 1 階）

出席者： 各 SC 国内分科会委員長，JNC 委員長，副委員長，本部理事，幹事団他

議事内容：

### (1) 本部状況報告（関根本部理事，福井 ELECTRA 編集委員）

- ・執行委員の選出方法について，現在，全体をヨーロッパ，南北アメリカ，アフリカ，アジア・オセアニアの 4 つの地域に分け，地域ごとのメンバーの数や従来考慮されていなかったパリセッションへの参加者数を今後考慮に入れる方向で検討が進められている。
- ・現在地域代表として執行委員に選出されていることから，SC 活動において，日本代表ということと同時にアジア・オセアニアの地域代表ということも含めてお願いしたい。
- ・CIRED と CIGRE との協定合意書がサインされ，今後，CIRED からの配電関係の情報も ELECTRA へ掲載していく。当初 CIRED の配電分野を CIGRE が吸収するとの話もあったが，結果として配電分野は CIRED が継続して担当していくこととなった。
- ・ELECTRA 表紙の写真として，各国 NC を代表する設備の写真を掲載しているが，日本提出分があと 1 つとなっている。無料で良い宣伝ができるので，ぜひ写真の提供をお願いしたい。

### (2) AORC ソウル会議の報告

- ・5/9 に開会セレモニー，韓国 NC の活動紹介，招待講演 2 件があり，その後 SC22,23（架空線・変電所）関係と SC34（保護リレー）関係との発表会場に分かれて，TM（技術会議）が開催された。
- ・5/10 には，AORC 初の見学会として，765kV Ansong 変電所の見学を行った。

### (3) 本部 SC 構成変更，新 SC 国内分科会の設立準備について

- ・本部 SC 委員長が全て決定し，また日本から推薦していた SC レギュラーメンバー候補が全て承認された。11/8 に新 SC 委員長による TC が開催され，各 SC のアクションプラン審議および 2004 年パリ大会の優先議題の決定が行われる。
- ・今後の課題となる新 SC 国内分科会の設立準備について，現 SC 移行 SC，再編成 SC，新設 SC の 3 種類に分けて対応案と進め方について説明があった。また，今後の課題，スケジュール案についても説明があった。

### (4) 各 SC 委員長からの報告と質疑

各 SC 活動状況・予定，今後の SC/WG/TF 会議日本開催の可能性，SC 活動上の問題点・課題，他 SC や JNC への要望事項，AORC TM テーマ候補等について，各国内 SC 委員長から資料を基に説明があった。

SC11：今後 10 年間の SC11 戦略プランでは「機器の寿命管理」と「機器と系統のインターラクシオン」を打ち出している。2003 年に中国にてアジアでの 3 回目の SC11 地域会議が開催予定。(東芝・伊藤委員長)

SC11(A1)：今後の SC 会議の開催予定については、1997 年に横浜で開催しており、当面の開催予定はない。(2003 年中国, 2005 年オーストラリア, 2007 年韓国での開催が決定)

SC12(A2)：機器メーカ再編, 個別の機器従事者の減少・大幅な若返り等の中で, 他学会との連携も含め, 更に CIGRE の活動を活性化する必要がある。

SC13(A3)：パリ論文の採択状況を 2000 年と 2002 年とで比較分析すると, NCA 論文の比率が高まってきており, AA 論文を通すことが難しくなっているため, 国際論文枠などを活用する必要がある。

SC14(B4)：中国上海での国際連系関係のシンポジウムについては, 今のところ国内分科会としては参加について話をしていない。

SC15(D1)：2003 年 (6/1～5) に名古屋で IEEE の国際会議が開催される。オーストラリア, 韓国, インド, 日本のレギュラーメンバーが全員日本に来そうなので, AORC の TM あるいはセッションをアレンジできないか検討している。また, 関連の WG/TF 会議の名古屋誘致をパリ大会で働きかける予定である。

SC21(B1)：日本では既に実用化されている大導体ならびに遮蔽層に関する WG21.03 について, 日本委員は今までいなかったが, 日本抜きでは困難とのことで, 追加参加要請があり, 現在検討中である。

SC22(B2)：従来の確定論的な設計手法から確率的な設計手法に取り組む WG/TF が活動している。その他にも, 導体温度のリアルタイムモニタリングなどをテーマとしたものも活動している。

SC23(B3)：SC 会議の際に AORC について, 中国やウクライナ等に話をしたが関心は少なく, 中国は存在すら知らなかったため, 今後パリ大会で PR したいと考えている。

SC33(C4)：新本部 SC 委員長の意見表明の中で, SC C4 の Prabha Kundur は, C4 に 4 つの Advisory group (電力品質, EMC, 絶縁協調, 他機関とのリエゾン) を置くこと, 戦略計画は 2003 年の SC 会議で立案することを表明した。

SC34(B5)：SC 会議の開催地については, 2005 年は現状インドネシアが立候補しているが, 過去の実績を見ると, 各奇数年毎にヨーロッパとその他地域とで交互に開催しているようである。

SC35(D2)：SC35 の SC 会議は, 1983 年日本, 1997 年中国と, アジアでの開催は 10 年に 1 度程度の実績となっている。

SC36：SC 構成変更に伴い, C4 等の新 SC に吸収されることから, SC 活動は終局に向かい淡々と進めている。

SC37(C1)：11 件ある WG のうち, 5 件がそれぞれ C3, C5, C6 の新 SC へ移行することとなっており, 今後参加者等について調整していきたい。

SC38: SC38 は今後の SC 再編後、いくつかの SC に分離して活動することとなるため、現在の国内委員会委員がどの SC に参加するかが当面の問題となる。

SC39(C2): 2002 年 10 月の IEEE/PES T&D2002 と SC39 のジョイントでタイトル「Deregulated Power Markets」の Tutorial と Panel Session を実施することを本部 SC 委員長から了承を得た。

SC C3: 6/21 付で本部 SC 委員長から、5/16 の EC 決定のメンバー表ならびに C3 のスコープの案が同封されたレターが届いた。別途アンケートが送付されるとのことで、その結果を基にパリで 8/28 にキックオフミーティングを実施し、活動計画を立てる。

SC C5: 従来の計画者や運用者の他に、ニューアクター（レギュレータ、トレーダ、IPP など）もターゲットグループとなってくる。そのようなことにも配慮しながら、国内分科会の委員についても、メンバーの輪を広げていきたいと考えている。

SC C6: 4/24 Adhoc Group の資料から、5 つの分散電源関連の WG ならびに TF が C6 に移ってくるようである。

(5) 2002 年第 39 回パリ本部大会案内について

- ・電気学会誌の公告資料をもとに、スケジュールの概要紹介があった。
- ・現時点での日本人参加申込者リストの紹介があった。
- ・パリ大会期間中の現地日本人控え室（227M）について、場所・オープン時間などについて紹介があった。パリ大会参加者は極力立ち寄るよう依頼があった。
- ・日本主催パーティについて、開催日時・場所等の紹介があった。2 月の総会にて別途開催する旨案内をしていた日本人現地打合せ会も、会場が変更となったことでスペースに余裕があるため、同時開催とすることとしたとの報告があった。
- ・グループミーティングでの発表者手順について、本手順は 5/23 付で変更となったものなので、念のため、各 SC 委員長も本部 HP での確認するよう依頼があった。
- ・電気学会 B 部門誌への掲載（1 月号）原稿の作成について、資料をもとに執筆分担について依頼があった。（執筆分担：SSLEM SC37, FAC/EPEE JNC 幹事, Large Disturbance SC39, 各 SC グループミーティング 各 SC）
- ・日本関係展示のレイアウトについて紹介があった。

(6) CIGRE 最優秀・優秀日本論文選考結果報告

- ・最優秀論文 1 件、優秀論文 2 件について選考結果ならびに選考理由の報告があった。（受賞論文は 1.2002 年（平成 14 年）活動報告参照）

(7) その他

- ・来年 10 月で日本 CIGRE 国内委員会設立 50 周年となる。2004 年の総会にて記念パーティを開催する予定である。また、50 周年誌について、各 SC 委員長に寄稿などの協力依頼があった。
- ・JNC ホームページにパリ大会の情報を掲載している。

懇親会： 「Marunouchi Cafe」内 C 会議室にて、CIGRE 最優秀・優秀日本論文表彰式ならびに懇親会を実施した。（17:30～19:00）

以上